

事業の目的

<仮設住宅支援員さんの目指すところ>

仮設住宅に住んでいる人全てが健康で前向きな生活を送れる環境をつくる

仮設住宅に住んでいる方が、仮設住宅からの卒業まで、健康を損なわず、あかるく、前向きに暮らしていくために、環境づくりの「お手伝い」を行うのが、本事業となります。

<仮設住宅支援員さんの成果指標>

談話室・集会所へ訪れる住民の方の人数

みなさんが多くの方とつながること、みなさんへ信頼し相談できる関係をつくること、談話室、集会所が楽しい場であること、来訪者数にはこのような意味があります。より多くの方が、談話室、集会所へ訪れる環境をつくっていきましょう。

事業役割分担

・業務の中での困ったこと、判断できないことの確認
・団地ごとのシフト等の確認
・各帳簿の報告

<支援員さんの役割>

仮設住宅での生活を取り巻く「お手伝い」と「つなぎ役」
目指す姿は、住民の皆さんが寄り集まる笑顔の空間の執事

- 1 談話室・集会所の管理
- 2 仮設住宅団地の見回り
※状況を見て、回数は、調整して大丈夫です
- 3 住民の皆様からの相談受付
- 4 物資、各種文書の管理・配布
※外部から直接依頼があった場合は、コールセンターへ確認
- 5 仮設住宅団地への訪問受付
※調査は必ず市役所へ事前受付
- 6 集会所利用予約の受付
- 7 コミュニティのお手伝い
※自治会の状況を見て、サポートを行いましょ
- 8 関係団体(生活相談員や保険士、NPOなど)との連携
- 9 広報の作成
- 10 各種帳簿の管理

・イベント・物資等の受付状況報告
・対応できない相談の連絡・確認

<マネージャーさんの役割>

支援員が活動をしやすいするための「サポート」と「業務管理」

- 1 支援員からの相談対応
- 2 支援員への情報伝達
※緊急で全体に伝えたい情報など
- 3 各種帳簿内容の報告
※相談受付票、来訪者受付票を見て週報で集計
- 4 備品、各種資料の管理・配布
- 5 支援員さんの労務管理(土日の対応を含む)
- 6 各団地における改善点の提案

<コールセンターの役割>

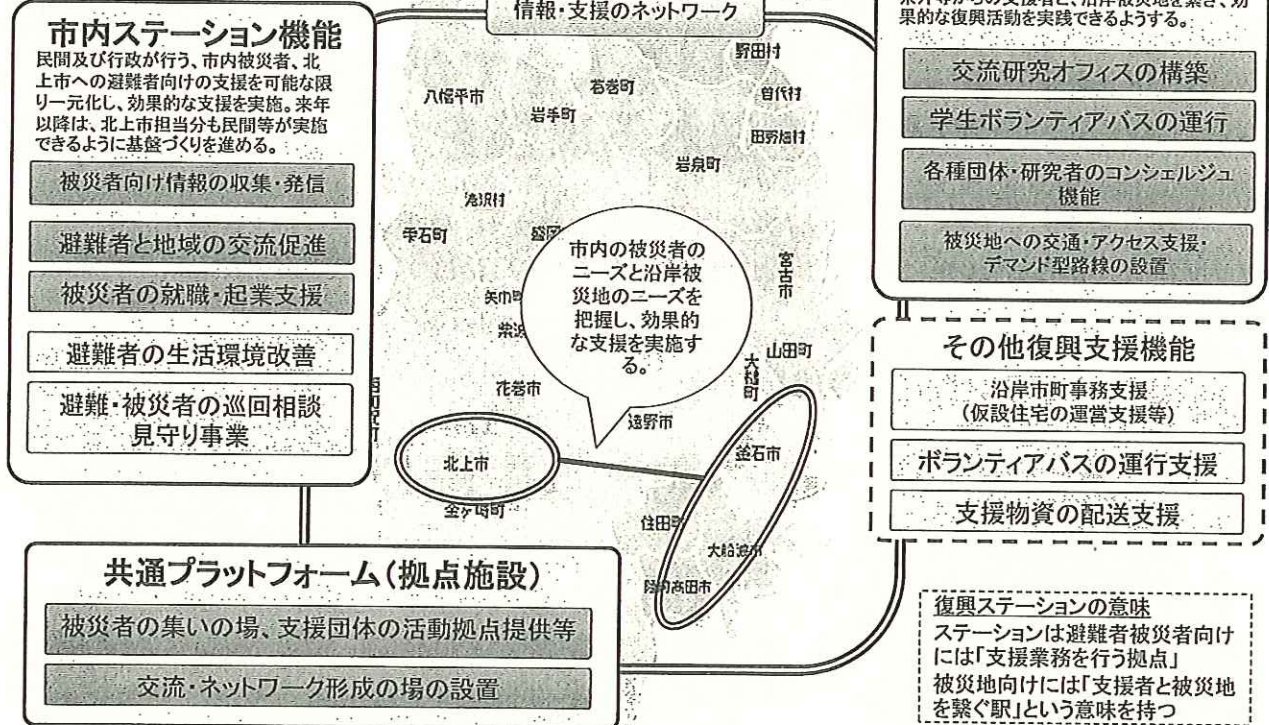
事業全体の「情報集約」「発信の窓口」

- 1 住民からの相談受付
- 2 支援員からの相談引き受け
(支援員で対応できない相談への対応)
- 3 関係団体、自治体との連絡・報告
(各種支援やイベントなどの申し込み受け付け)
- 4 マネージャー・支援員への連絡、指示、状況確認等
- 5 各団地の利用状況、物資状況の把握

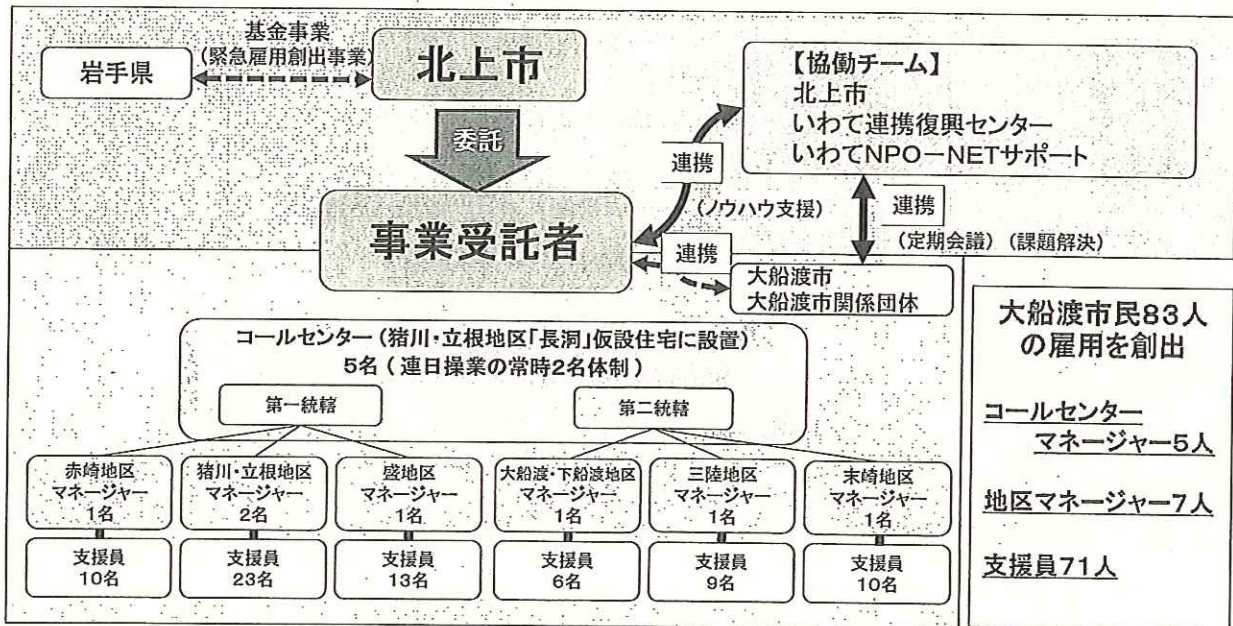
きたかみ震災復興ステーション事業のイメージ

実施主体：復興支援協働体

オレンジ色が当該事業
緑は、現在、北上市で行っている事業



【大船渡市仮設住宅運営支援事業】



○これまで北上市が培ってきたコミュニティづくりのノウハウを活かしながら、仮設住宅における生活課題の解決やコミュニティ醸成を支援。

○同時に、被災地での雇用を創出。

○北上市の事業として実施し、大船渡市には事務処理の負担をかけない。